

【評価実施概要】

事業所番号	0172900714		
法人名	有限会社 旭川高齢者グループホーム		
事業所名	旭川高齢者グループホームほーぷ		
所在地	旭川市春光台5条2丁目14-7 (電話)0166-50-2188		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南1条西5丁目7愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成21年7月6日	評価確定日	平成21年7月21日

【情報提供票より】(21年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 8月 2日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤18人, 非常勤4人, 常勤換算14.1人	

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り
	2階建ての ~1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	18,000~23,250 円	
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	450 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	5 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.7 歳	最低	67 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	とびさわ呼吸器科・内科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

旭川市郊外の丘陵地にある閑静な住宅地に立地し、緑豊かな自然環境に恵まれた施設である。同一敷地内に、居宅介護支援、訪問介護、通所介護、高齢者下宿を併設し、総合的に地域の高齢者を支援する取り組みが行われている。開設から8年が経過し、地域の相談所としての機能を有し、地域に根ざした運営がなされている。職員は、和気あいあいと支援しており、職員間の関係性の良さが伺えた。ホーム内は、明るく木目が活かされた、家庭的な雰囲気有した作りである。体操やレクリエーションに力を入れており、中庭では花や果物が育てられ、日光浴や収穫などを楽しむことができる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を踏まえ、ミーティングなどを活用し理念の共有、地域の相談所になるなど地域との関わりを深め、家族への暮らしぶりや行事の報告など、取り組みを行った。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価を踏まえ、外部研修への参加、その人らしい暮らしや役割などの支援、災害対策など、取り組みを考えている。自己評価は、全スタッフの意見を踏まえ評価を行った。また、運営推進会議でも報告され、施設内で閲覧できる状態になっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	利用者、家族、地域の代表者が出席し、2ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。施設利用状況、行事報告、意見交換を行い、サービス提供に活かしている。地域包括支援センターの職員の参加を打診している。市が主催する研修には積極的に参加している。地域の事業所間の情報交換を行ったり、市との情報交換を積極的に行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	病状、体調の変化は、その都度連絡をしている。面会時に日々の暮らしぶりについて説明し、季節ごとに広報誌を発行し、行事の実施状況などをお知らせしている。毎月の請求書発行時に、預かり金出納状況を説明している。契約書で内部の相談窓口の他、外部への相談も可能としているが、重要事項説明書に外部の相談機関の案内がなく、苦情対応方法について施設内に掲示がされていない。過去に意見箱の設置を行ったが、投函されなかったので撤去した。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入し、町内のお祭りへの参加、花壇作りや清掃活動など、地域活動に積極的に参加している。地域の方が気軽に施設を訪ねてきている。地域に根ざした運営をしており、地域の相談所としての機能ができています。

## 評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者ニーズの充足、尊厳の保持など、事業所独自の理念を作り上げている。地域交流ができており、地域の相談を受けたりしているが、地域密着型サービスとしての理念と合致してはいない。		地域との関係性を意識した施設運営をされており、地域密着型サービスとして「地域の中で、その人らしく生活することを支えるケア」を、理念の中を含め検討していくことが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を詰め所入り口に掲示し、ミーティングで理念について話し合い、日々理念に沿ったケアを行っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内のお祭りへの参加、花壇作りや清掃活動など、地域活動に積極的に参加している。地域の方が気軽に施設を訪ねてくれている。地域に根ざした運営をしており、地域の相談所としての機能ができている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を踏まえ、理念の共有方法、地域との関わり、家族などへの報告など、取り組みを行った。今回の自己評価を踏まえ、外部研修への参加、その人らしい暮らしや役割などの支援、災害対策など、取り組みを考えている。自己評価は、全スタッフの意見を踏まえ評価を行った。また、運営推進会議でも報告され、施設内で閲覧できる状態になっている。		サービスの自己評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて再確認を行い、項目の一つ一つの意味を理解し、検討することで、より事業所の質の向上が期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地域の代表者が出席し、2ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。施設利用状況、行事報告、意見交換を行い、サービス提供に活かしている。地域包括支援センターの職員の参加を打診している。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する研修には積極的に参加している。地域の事業所間の情報交換を行ったり、市との情報交換を積極的に行っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	病状、体調の変化は、その都度連絡をしている。面会時に日々の暮らしぶりについて説明し、季節ごとに広報誌を発行し、行事の実施状況などをお知らせしている。毎月の請求書発行時に、預かり金出納状況を説明している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書で内部の相談窓口の他、外部への相談も可能としているが、重要事項説明書に外部の相談機関の案内がなく、苦情対応方法について、施設内に掲示がされていない。過去に意見箱の設置を行ったが、投函されなかったため撤去した。		苦情受け付け体制、外部への相談窓口を明示することで、苦情や意見に対し、前向きに受け止め、活かしていくという事業所の姿勢を示すことができると思う。家族との集まりの場で、意見を出せる風通しの良い関係作りに努めていくと、さらに良くなると思われる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	採用時には長期間働いてもらえる人を採用している。離職する際は、引き継ぎ期間を十分に設けて、利用者に不安が最小限ですむように配慮している。家族には、面会時に口頭で説明を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設の看護師から緊急時の対応など、定期的に施設内研修を実施している。施設外の研修については、研修案内を回覧したり、参加するように働きかけを行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近郊のグループホームの研修に参加し、意見交換をして、サービスの質の向上に努めている。地域包括支援センターから研修案内あり参加している。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、見学や体験利用をしてもらい、家族の協力も得ながら、不安の軽減、馴染みの関係作りに配慮している。馴染みの家具や思い出の品々を持ち込めることを説明している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	テーブル拭き、折り紙、縫い物等、日常生活の中で、できることを一緒に楽しみながら行っている。経験豊富な利用者からは、色々と教わりながら行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p><b>1. 一人ひとりの把握</b></p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活の中で、コミュニケーションの場を設け、利用者一人ひとり想いを傾聴し、介護方法を検討している。</p>		
<p><b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b></p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>定期的に担当者会議を開催し、職員間で話し合いをして、計画を作成している。家族に説明する時にご意見をいただき、今後の計画に活かしている。</p>		<p>課題抽出型の計画になっています。生活全般に関して、できること、できないことを再確認し、具体的に利用者主体の暮らしを反映した計画になると、さらに良くなると思われる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的（2～3ヶ月）に介護計画の見直しを行っている。状態に変化があれば、その都度見直しを行っている。</p>		
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>受診は施設で対応している。毎月の買い物レクなど、外出支援も可能な範囲で対応している。家族が宿泊するときは、寝具の貸し出しを行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望している医療機関に通院できるよう、医療機関と連携を取りながら支援している。介護員と看護師が協働して健康管理を行い、必要に応じて受診の支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時、終末期は、医療機関と連携していくことになり、利用開始時に施設の方針を説明している。その都度、家族と相談しながら、対応方法について協議している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書の中で秘密保持を規定している。個人情報使用の同意を得ている。プライバシーに関しては、スタッフ間で注意し合うこととしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを尊重し、対応が可能な限り希望に沿えるように努めている。利用者が重度化しており、日常生活への支援が難しくなっている。		要介護4・5の利用者が半数を占め、日課に沿った集団的な生活になりがちだが、より一人ひとりの生活に着目した支援が期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好に合わせた食事の提供を考えている。配膳、下膳、テーブル拭きなど、お手伝いをしてくれる利用者もいる。		食事の時間は、職員も同じテーブルについて見守りや会話をしたり、音楽の工夫など、食事というひとときを楽しむことができるような食事の雰囲気を検討されるよう期待する。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は火曜・金曜としている。本人の希望があればいつでも入浴可能であることを説明している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎月の季節の行事、気候の良い時期には散歩や外出などにより気分転換を図っている。夏季は、中庭を活用して日光浴や野菜や果物の収穫を行っている。毎日、午後からはレクの時間を設け、カラオケや作品作りをしている。花壇の花を花瓶で食卓テーブルを飾る役割の利用者がいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、ドライブなど、スタッフが付き添える範囲で、外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っていない、施設前が道路に面しているため、事故防止のためセンサーを設置している。居室の鍵は利用者の意志で使用している。最近はいないが、徘徊される利用者がいれば、一緒に散歩することになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年一回の防火訓練を実施している。火災以外の災害対策も検討している。		重要事項説明書の中で、防火訓練は年二回（昼間と夜間を想定）とされている。消防計画、連絡体制などマニュアル類を確認し、目の届くところに配置することが求められる。運営推進会議で、引き続き地域の協力を求めるとともに、協力体制の確立が期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は全て記録している。摂取量が減少した時は、形態の工夫などで対応している。一人ひとりの嗜好を把握し、栄養士の専門的アドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音の大きさ、採光、臭いなど、気になることはなかった。木目調で、季節の飾りをしたり、家庭的な雰囲気となっている。住み慣れた環境に近づけるよう工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇、写真、家具など、思い出の品々が持ち込まれ、落ち着ける居室になっている。住み慣れた家に近い環境で生活できるよう配慮している。		

 は、重点項目。